教育福島　'86　1月号　Vol.108

目　次

—表紙絵・若　松　光一郎シリーズ—

年頭所感 ……県知事　松平　勇雄……6
県教育長　佐藤　昌志……7
提　　言 ……武蔵野美術大学教授　桑原　住雄……8

特　集　県民スポーツの振興 10

わかりやすい教育法令 ……入学・卒業……21
研究実践 ……集団生活のよろこびを得させるには・塩川町立塩川小学校教諭・芳賀　忠夫……22
教育センターから ……体育・保健体育講座……24
随　　想 ……27
告知板 ……新教育委員長の就任・ほか……35
昭和60年度県公立学校教職員研究論文特選入賞者論文紹介〔1〕
霊山町立大石小学校教諭・後藤　修……42
原町市立石神中学校教諭・小野　真也……48
まちからむらからこんにちは ……成人大学移動講座・鏡石町教育委員会……54
美術館だより ……56
博物館だより ……会津地方の基盤岩調査……57
羅針盤 ……今春卒業予定者の進路希望状況……58
世界の教育は、今 ……西ドイツ・ベルギー・アメリカ……59

表紙絵について

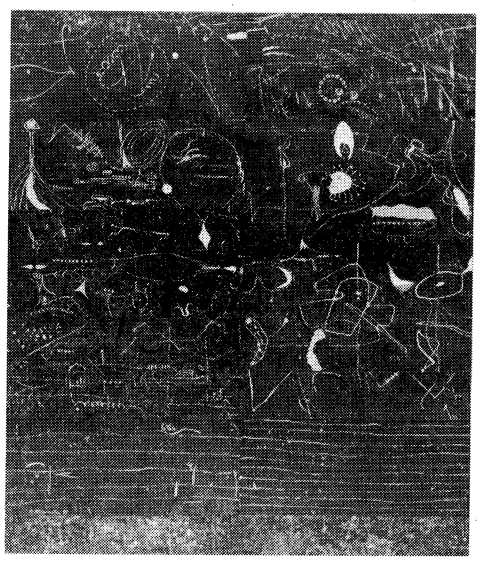
「オートノミー1」

若松光一郎　作

氏にとって一九八五年はきわめて多忙、かつ感慨の多い年であったろう。春から夏にかけて、半世紀の歩みを振り返る回顧展の準備に忙殺され、また、夏からは新制作展とギャラリー・オカベの個展にむけて休むひまもない日々であった。

回顧展開催とともに、一九六二年から講師として在職した福島高専を退いたことにも、氏の胸中いかほどかと思われる。

一個の画家として、また多くの後進のよき助言者としての半世紀。氏も既に七十一歳を迎えた。

にもかかわらず、氏はそれらをおくびにも出さず、柔らかな笑顔をたたえて忙しく飛びまわっている。「大作を」が、今も氏のモットーであり、本年も快作が期待されるところである。

（キャンバス・和紙・カゼインカラー・墨・他、二〇七・〇×一七七・〇cm　一九七八年作、第四十三回新制作展出品、福島県立美術館蔵）